

2018年 6月22日 千葉大学アカデミック・リンク・センター

千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー

「教職協働のあり方から考える教育・学修支援」

参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 54名

アンケート提出数： 30件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・私の所属大学では、教職員協働は最も難しく無理くらいに思っていたのですが、本日、様々なお話を聴き勇気づけられました。まずは難しいですが基盤づくりのきっかけを作りたいと思います。
- ・全ての話が新しい発見でした。まだ、経験が浅く理解ができていませんが今後に生かしたいと思います。
- ・教員の方とも日頃から話しをして、協力してくれる基盤を作ることが大切だと思いました。
- ・教職学協働に大切なのは、ひとつの目標。ブレないこと。
- ・目標達成意識の醸成が非常に大切であること。
- ・基盤が大切。目的意識の共有が大切ということがわかりました。
- ・日ごろ自分が先生ととりくんでいる業務が学外のみなさまにどのように伝えられ、どのように受けとめられるのか大変興味深く参加いたしました。教職協働はあたりまえになっておりますが、今日の状態に至るまではいろいろな試みがあったとあらためて気づきがありました。
- ・教職“学”協働、SCOT 制度については、はじめて知る機会となりました。本学では、大きなプログラムに数多く採択されているわけではないですが、榊原先生の“草の根”的運動というキーワードが印象的で、職員が担当している授業などをきっかけに、2割の先生方とまずは活動したいと感じています。
- ・「教職^学協働」 「学生の協働も必要となるという点」 「SCOT 制度が興味深かった」
- ・若手職員のアイデアが生かせる職場環境が結果として補助金獲得につながっていること。
- ・その大学の土壌って大事なのだ。
- ・教職“学”協働の実際
- ・自分の所属する大学では、学生による授業評価アンケートを行い、授業改善に役立てようとしているが、形式化し、何ら授業改善に結びついていないので、SCOT 制度による教職学協働は授業の質を高める上で有効なものであると感じた。
- ・吉川さんがおっしゃった教職協働の Tips
- ・トップ・マネジメント、理工学がベース、教員が外部（企業出身、経験者）交流あり、しかけ作り、人文社会科学系の大学は時間がかかると思った。
- ・先進的な取組事例がよく分かった。
- ・組織の基盤、方針がしっかりしているということがよく理解できた。
- ・SCOT について、学生の力を使うことがこんなにも具現化されていることを知った。協力的な2割の教員を使ってどんどん進めるということ。
- ・SCOT の取組みが興味深かった。
- ・FD/SD カレンダーは、実用的で有用と思いました。

(原文まま)

- FD だけでなく SD についてもくわしく知ることができてよかった。学生をまきこんだ FD は初めて知って参考になった。
- 職員力・質の高い大学職員 おもしろいと感じた。 =職員力について考えようと思って=
- 芝浦工大での教職協働の取り組み、大学の風土など、シラバスの違いに驚き！（本筋ではないですが・・・）卒研ルーブリックにも驚き！！
- I am very happy to have discovered the SCOT system. I would like to implement this system in our school of Nursing.

(以上、原文まま)

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- 教職協働における学生との協働についてより深く知りたいと思いました。
- まず、学内で活動を進めていくためには、“外部資金の調達” 応募はキーワードになってくるのでしょうか？ SOS を推進した職員の方のプレゼン資料でもその点が印象的でした。
- お二方のご発表で何故芝浦工大が補助金獲得しつづけることができているのかよくわかりました。
- 教職協働に理解を示し、自発的に教職員が取り組むことが理想であるが、教職協働を単なる業務としてとらえるだけの教職員がいる限り浸透していかないのではないかと。公立大学法人の場合、県からの派遣職員がいて異なる組織文化に染まっているためそう感じるのかもしれない。
- トップリーダーの人物像、カリスマ性を知りたいと思いました。
- 理工系は国立大学法人が母体と考えるが、今後、国立大学法人が組織的に攻勢をかけた場合、一私学としてどのように生き残りをはかるのか。
- 職員という言い方には、教員を含めていくようにすべきと思いました。(FD は、広義の SD なのでしょう)
- 専門用語が多くてよくわからなかった。勉強する必要があると感じた。
- I understood how curricula were developed, but I wish there were some pieces of evidence showing the educational impact of the collaboration. Is collaboration really helping students' learning?

(以上、原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・学生のために行動できるかが資質。広い目で全体を見ることかと思います。
- ・学部の要望、状況に合わせた教育・学修支援を行うことは、非常に難しく試行錯誤のくりかえしです。教員の教育方針と学生の学びの質の向上をとりもつのが職員の役割であると考えますが、教務系の知識や学生の状況を把握するスキル等、幅広い能力が要求されるポジションと思われます。
- ・本学では、おそらく各部署それぞれに教育・学修支援について実施していたり、考えていたりすると思うのですが、なかなか全学として見えてきません。見える化すること、アピールすることができていないのだと強く感じました。
- ・学生が大学にとってステークホルダーであることを教員・職員が共通認識として共有することが最も重要ではないかと考える。
- ・今、大学内のWSにて教職員（若手）にて行っていますが、教職員2割で行っている感があります。
- ・他部署の教職員とつながる能力、つなげる力は業務をえんかつに進める上で非常に重要だと思う。
- ・帝京大学のSCOTは、興味深いですね。報告1にありましたように。

(以上、原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・非常に興味深い内容でした。小規模な大学であり、本日学んだ内容はスタッフの許容度を超えています。少しずつ取り込んでいきたいと思えます。
- ・芝浦工業大学のフロアの職員さんがとても明るくて元気いっぱいな印象をお声から受けました。業務を部署の皆さんと協力しながら楽しんでいらっしゃる様に思えました。ありがとうございます。
- ・学生を育てるための教育機関としてあり続けたいと思えました。
- ・本学ももっと教員と職員が話す場を増加したいと思います。
- ・本日はありがとうございました。
- ・貴重な機会をいただき、ありがとうございました。本日ご参加された方から1人でも多くの方が本学のWSにお越しただければ、うれしく思います。
- ・教職協働の“あり方”について大学全体での成功事例を伺うことができました。一職員として何ができるか、考えるきっかけとなりました。
- ・教員、職員の観点からお話を聴くことができよかったです。どうもありがとうございました。
- ・教職員も専任だけでなく任期付、非常勤、契約職員などさまざまなのでこういう立場の人たちが教職協働にどうかかわっていくかに興味がある。
- ・トップリーダー力がすばらしい。一緒に働きたいと思えます。
- ・理工系大学ということで数値データをもとに「議論する文化の醸成」につきると感じた。
- ・学ぶことが多すぎて書ききれません。とても有意義でした。
- ・本日も興味深いお話を聞く機会をいただき、ありがとうございました。
- ・録画・録音されているようで、講師の方が宜しければ公開されても宜しいと存じます。
- ・具体的な事例でとてもわかりやすかった。
- ・他大学の事例を伺うことができ、とても良い機会となった。

(以上、原文まま)

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 19名 b. 千葉大学内の方 8名 (回答なし 3名)

(2) a. 学生 0名 b. 教員 5名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 17名 d. 図書館職員 6名
e. 出版関係 0名 f. その他 1名 (回答なし 1名)

6. セミナーを何で知りましたか?

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 5名 b. Web(図書館) 0名 c. Web(千葉大学) 1名
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 0名 f. センターからのメール 14名 g. Facebook・Twitter 0名
h. asagao メーリングリスト 8名 i. その他 6名 (上司からのすすめなど) (複数回答あり)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○を付けてください。

(1) 参加の経緯 : a 所属機関からの推薦・業務命令 7名 b 自身の希望 16名 (記載なし 7名)

(2) 旅費の負担 : a 所属機関負担 16名 b 自己負担 6名 c その他 (記載なし 8名)

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前 : () ご所属 : ()

電子メールアドレス : 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※ 9名が新規に継続的な情報提供を希望